

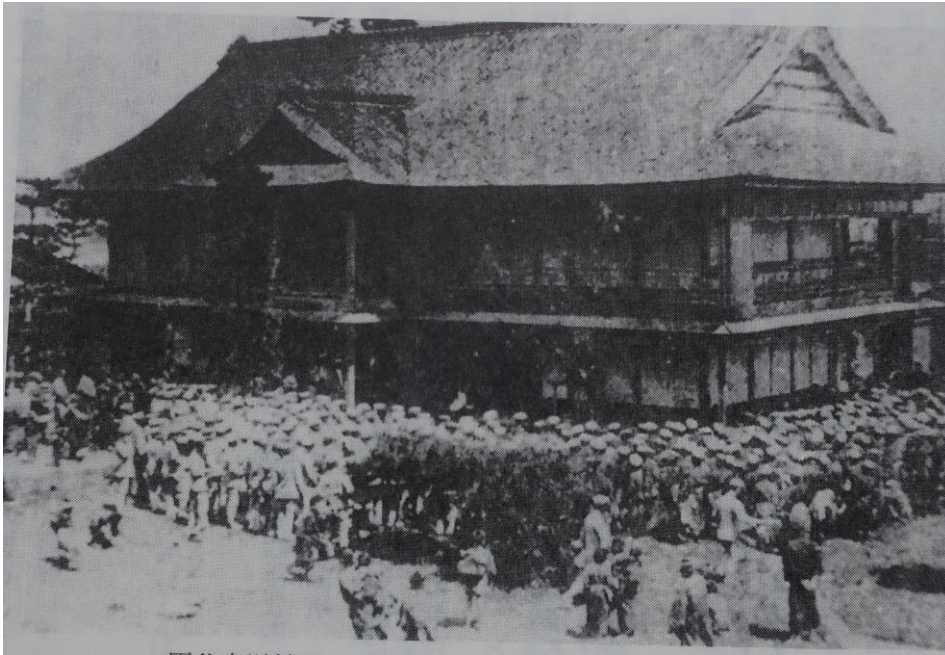
記念誌「相中相高八十年」より
(創立期 その 8)

学友会の発足

相馬中学校学友会発足式は 1905(明治 38)年 7 月 3 日に挙行された。本校創立以来 8 年目のことである。翌春 3 月 28 日『学友会雑誌』が創刊された。

学友会は現在の生徒会にあたる組織である。当初の学友会は、生徒が通常会員であるほかに、特別会員として教職員、賛助会員として卒業生等も会員の資格をもち、役員として校長が会長、首席教諭が副会長を兼ねるほか評議員、部長も教職員が任じており、これに対し生徒役員は理事、幹事、委員となっている。

学友会が執行する行事の中心は、春の学友会大会と秋の運動会であったが、そのほかに各部独自の大会があった。



原釜東洋館で行われた学友会大会 (1914. 6. 4)

部は、庶務、主計、撃剣、柔道、野球、庭球、雑誌、講談の 8 部でスタートし、1907 年の改正で庶務、主計のほかは武道(柔剣道)、野外運動(野球、庭球)、文芸の 3 部に統合された。さらに 1911 年の改正で庶務が廃止され、主計が会計に改められたほか、武道部以外は最初の構成に復され、1915 (大正 4) 年まで変更がなかった。

各部とも校内での発表会や紅白試合などを行うことが主であったが、運動部関係の仙台遠征は学友会発足の年から特別の年を除きほぼ毎年実施されたほか、修学旅行のとき見学地の中学校と交歓試合を行ったりしている。